

# 収穫感謝日 ― 感謝から分かち合いへ ―

福 万 広 信

アメリカでは、11 月第 4 木曜日を感謝祭 (Thanksgiving Day) として祝日と定められており、日本の多くのプロテスタント教会も、この日に近い 11 月第 4 日曜日を「収穫感謝日」として礼拝を守っています。

17 世紀初頭、清教徒たち (ピルグリムファーザーズ) は、信仰の自由を求めてイギリスを出発しました。航海の末にたどり着いたアメリカ大陸で、彼らは最初の冬を迎えることになります。厳しい寒さの中、彼らは飢えと渇きのために衰弱し、半数が亡くなったといえます。そのような中、彼らは先住民たちに支えられ、土地を耕し、作物を育て、秋には多くの収穫物を得ることができました。彼らは自分たちを助けてくれた先住民たちを招待し、神の恵みに感謝する集いをしたのが感謝祭の由来とされています。

この由来については、史実性を疑問視する声もあり、すべてが事実かどうかは分かりません。しかし、その後、移民たちがたどるのは、先住民の土地を奪い、迫害するという歴史なのです。この略奪と迫害の歴史を通して、私たちは人間の罪深さ、弱さの現実を思い知らされます。

彼らの新天地での生活は、私たちの想像をはるかに超える苦難の連続だったでしょう。しかし、だからこそ気づくことのできた恵みもあったはずです。先住民たちの優しさ、仲間たちの愛情、自分を生かしてくださる神の恵みに多くの人々が素直に感謝することができたのではないのでしょうか。

しかし、その気持ちは次第に薄れ、感謝祭の目的も自分を支えてくれた神や人々への感謝ではなく、自分たちが豊かになっていくことへの感謝へと変わっていききました。人々は自分たちだけを中心とする考え方、生き方へと変わっていったのです。

このことは、私たちにも同じようなことが言えるのではないのでしょうか。振りかえれば、私たちには感謝すべきことがたくさんあります。しかしそのことに感謝することを忘れ、不満ばかりを口にしてしまう私たちです。また多くのことに恵まれているにも関わらず、「もっと、もっと」とさらに多くのものを手に入れたいと考えてしまうのです。

「収穫感謝日」の季節、私たちは改めて与えられている恵みの大きさに気づき、素直に感謝する心を取り戻すことが必要なのではないのでしょうか。そして、自分に与えられた恵みを、今必要としている人々と、どのように分かち合うことができるのか、そのことに心を向けて生きていくことが求められているのではないのでしょうか。

(初等部宗教主事)